

# 認知症地域支援推進員 活動事例

～ 住民や関係機関との取組み ～

向日市社会福祉協議会（京都府）

認知症地域支援推進員 石松 友樹

平成28年7月27日





# 向日市基礎情報

人口	54,513人	65歳以上人口	14,428人
高齢化率	26.4%	第6期介護保険費	5,177円
要介護認定者数	2,438人 <small>※ 平成26年10月1日現在</small>	要介護認定率	17.4% <small>※ 平成26年10月1日現在</small>
日常生活圏域数	1圏域	包括数	委託：3

認知症地域支援推進員数： 1名（うち委託：1名）

《役割》 認知症の人に対し、状態に応じた適切なサービスが提供されるよう、認知症医療機関、介護サービス事業者や認知症サポーターなど、地域において認知症の人を支援する関係者の連携を図る。認知症の人やその家族を支援する事業を実施する。

## 地域の特徴

向日市は、京都盆地の西南部に位置し、市の北部、西部と東部は京都市に、南部は長岡京市に接し、南北4.3km、東西2.0kmにわたる南北に長い市域で、面積7.72Km<sup>2</sup>の西日本で最も面積の小さな市です。



# 認知症施策の全体像

認知症であっても安心して生活できる地域を目指して、次の2点を中心とした取り組みを推進していきます。

○認知症に関する正しい知識と理解が市域全体に広まるよう、市民や市内の事業者などに対して、様々な機会を通じて認知症に関する正しい知識の普及啓発に努め、認知症の方を正しく受入れ、見守る環境づくりに取り組みます。

○認知症の可能性のある人を早期に把握し、状態に応じて早期から適切に対応し、適切な医療(早期発見)・介護サービスにつなげていく体制づくりに取り組みます。

以上の取組を進めるため、認知症地域支援推進員を配置し、関係機関との連携を図り、認知症施策を推進します。

# 取組当初の課題

- 認知症に関する講座等の参加を募っても参加者は高齢者（自分が認知症にならないために話を聞きたい）や、**いつものメンバー**や領域が多く、**若い世代**の関心が低かった。  
(考えるきっかけが少なかった)
- **老若男女すべての人**たちが認知症に関心を持ち、地域で支え合えるやさしい町を目指して、子ども達の力に着目する。考えるきっかけがあれば協力してくれるはず。
- 様々な事業を様々な事業所が行ってはいるが、**つながっておらず、単発イベント**で終わっていた。
- 様々な関係者や地域住民等と顔の見える関係でなかったため、**個々のケース**に問題（例えば：徘徊時や主治医がいない、受診拒否など）の際の検討や**動きに時間がかかった**。  
どこの誰に相談すればよいのか分らなかった。

# 具体的な取り組み

だれに	なにを
① 地域行事等に参加する一般住民	認知症〇×クイズ 「町で困っている人を発見したら…」
② スーパーで買い物中の一般住民	啓発アンケート
③ 小・中学生とその保護者	「近所のおじいちゃんが困っているのを発見したら…」
④ 認知症にあまり関心がない人	「プロ野球選手と認知症について考えませんか」
⑤ サロンの世話人	「もしサロンのメンバーが認知症になったら…」
⑥ 警察	徘徊SOSネットワークの提案
⑦ 金融機関やスーパー・コンビニ	徘徊SOS協力機関の登録
⑧ 医療・介護事業所	対応力向上研修 徘徊SOS協力機関の登録
⑨ 町内会・自治会・集合マンション	「ご近所の人徘徊しているところを発見したら…」

# ① 地域行事等に参加する一般住民に 啓発アンケート・認知症〇×クイズ

## ★子ども

- ・にもつをもつ。
- ・たすける。
- ・いっしょにあるく。
- ・大人けいさつにれんらくする。
- ・まいごですかときいてみる。
- ・おうちまでおくってあげる！

町で困っている人を見かけたらどうしますか？

## ★大人

- ・まず声をかけて話をします。名前や住所がわからない様子なら、交番と一緒にいきます。
- ・近所の人に知らせる。
- ・お話をして仲良くなって家までお連れしたいと思います。
- ・手をつなぎ 好きな物なんですか？花を見て散歩しましょう。
- ・その方の安全が確認できる状況になるまでしっかりサポートします。
- ・手をつないで目的の場所くらいは案内できると思います
- ・いつかは自分もその日がくるであろう。声をかけ合って助け合いたい。
- ・はじめは見守って困られているなあと思ったらやさしく声をかけたいです。
- ・まずあいさつします。

463人の  
やさしいご意見

住民が多く集うイベントと連携し、幅広い世代の住民対象に認知症に関するアンケートや〇×クイズを実施し、合わせて認知症啓発タオルを配布。



ポイント  
ポイント

人が多く集まる地域の行事  
楽しく参加できる工夫

## ② スーパーで買い物中の一般住民に

## 啓発アンケート

認知症の人を地域で支えよう！！

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください！

認知症の症状に徘徊（うろうろと歩きまわり道に迷い帰れなくなる）があります。徘徊は意味もなく歩いているわけではありません。お年寄りの気持ちを理解しようと務め、気持ちを落ち着かせてあげることが大切です。

1. あなたの性別（該当するものに○）

ア 女性                  イ 男性

2. あなたの年齢

(                  ) 歳代

3. 「徘徊をしている方」を見かけたら声をかけてみようと思いませんか？

ア 人助けになるのならかけてみる          イ 相手によってかけてみようと思う

ウ 声はかけないと思うが連絡はできる      エ 何もしないと思う

オ その他(    )

4. その理由をお聞かせください（どんなことでも結構です）

5. 近所の方が認知症だったら、何かできそうなことはありますか？



地域のスーパー等の商店の一画をお借りし、アンケート「徘徊している人を見つけたらどうしますか」を実施し、合せて認知症啓発タオルを配布。



ポイント  
ポイント  
ポイント

人が多く集まる場所は？  
気軽に参加できる工夫



### ③ 小・中学生とその保護者に 「近所のおじいちゃんが困っているのを発見したら…」



#### 感想文(一例)

##### 【子ども達】

困っている人を見つけたら知らんぷりしないで声をかけたり、お母さんに相談します。

##### 【保護者】

困っている人のために子ども達が一生懸命考えているので、親としても知らんぷりするわけにはいきません。

ポイント  
ポイント



授業参観  
親子一緒に考える

## ④ 認知症にあまり関心がない人に 「プロ野球選手と認知症について考えませんか」



ポイント  
ポイント



著名人をゲストに考えるきっかけ  
地域の関心ごとに目を向けて

## ⑤ サロンの世話人に 「もしサロンのメンバーが認知症になったら…」



認知症になった  
→サロン無理？介護保  
険サービスにすべて移  
行？



ポイント  
ポイント



自分自身のこととして捉えてもらう  
認知症になっても今まで通り…

# ⑥ 警察に

## 徘徊SOSネットワークの提案

### 同意書

私は、平成 年 月 日、  
乙訓認知症徘徊SOSネットワークで  
公共機関、医療機関、その他地域の関係機関等  
へ行方不明者の手配をすることに同意します。

平成 年 月 日

住所

氏名

続柄 ( )

さがしています		「要救護者」情報シート				
		平成24年2月23日				
		〇〇地域包括支援センター				
写真貼り付け						
顔写真			全身写真			
氏名	やまだ たろう 山田 太郎		性別	男	年齢	80歳
住所	向日市上植野町					
身体的特徴						
身長	中背	cm	体型	ふつう	体重	kg
歩行	ふつう 麻痺なし 杖なし					
会話	難聴 初対面の人には緊張しやすい					
その他特徴	眼鏡 色黒 頭髪薄い					
持ち物	グレーの毛糸帽子 小遣い程度の金銭入り財布 携帯電話					
徘徊場所	片岡医院 済生会病院 〇〇薬局 デ イサービスセンター向陽苑 阪急電車を利用することあり					
<b>これは訓練です！</b>						
ただいま徘徊模擬訓練を行っています。						
発見された場合は直ちに下記にご連絡ください。						
向日町警察署 生活安全課 (075-921-0110)						
※この情報シートは捜索解除の連絡後、シュレッダー等で必ず破棄してください。						

8



警察官だけでなく地域で取り組めないか  
地域の目を借りて

# ⑦ 金融機関やスーパー・コンビニに 徘徊SOS協力機関の登録



関係者の人脈を生かして協力依頼訪問。



ポイント  
ポイント  
ポイント

知った人から  
みんなの人脈を生かして

## ⑧ 介護事業所に

# 対応力向上研修 徘徊SOS協力機関の登録



自分自身の支援方法  
をかえりみる機会に



ポイント   
ポイント 

自分が支援を受ける側だったら  
認知症になっても今まで通り...

# ⑨ 町内会・自治会・集合マンションに 「ご近所の人々が徘徊しているところを発見したら・・・」



ポイント  
ポイント  
ポイント



偏見のない地域に  
徘徊ではなく散歩に(大牟田市さん参考)

# 事業実施までの流れ(一例)

## ●第1回地域福祉活動計画策定委員会

(委員メンバー: 市民・ボランティア連絡会・民生児童委員・生涯学習課・学校教育課・高齢介護課・子育て支援課・地区社協・地域包括・居宅介護支援事業所・通所介護・訪問介護・大学教授 社協 等)

・地域福祉の課題や抱負をまとめる。



## ●第1回ワーキングチーム会議

(チームメンバー: 高齢介護課・学校教育課・地域包括・居宅介護支援事業所等)

・テーマごとにアクションプランを企画することとなり、高齢分野は「若い世代への認知症の啓発」に決まる。



## ●第2回ワーキングチーム会議

・アクションプラン企画を検討。

・学校との連携が重要であることを確認。



## ●第2回策定委員会

・アクションプランの方向性を委員全体で確認。



## ●第3回ワーキングチーム会議

・アクションプランの詳細について検討。

・事業実施の前に学校教育課から各学校の校長先生に事業の受け入れ依頼をしていただけることとなる。



## ●事業実施



## ●第3回策定委員会

・地域福祉活動計画に事業の内容を紹介することとなる。



その後、推進員と学校との直接交渉が可能となり毎年恒例事業となる。



# 工夫したこと

- 対象者を若い世代に設定
- 若い世代の関心ごとに目を向ける
- 子どもからできる親同士のネットワークに着目
- 参加しやすい時間と場所の設定
- 対象者が集まる場所に出向く(待っていても来ない)
- 子どもも親も一緒に楽しく参加できる内容
- 福祉だけの視点にならないように気を付ける
- アンケートは書くだけでなく1人ひとりと対話しながら行う(市民にヒアリングできるチャンス)書いていただいたものはその場で掲示し参加者全体に見える化
- 地域の行事にはできるだけ短時間でも顔を出す
- お誘いがあれば断らない
- 多少無理をしてでもお願い事は引き受ける
- 自分にはない人脈は上司や仲間の協力を得る
- お土産も忘れずに

お土産の啓発タオル



# 取組を通して課題と 感じていること・気が付いたこと

①イベントで終わらせないこと

②「直接(一人で)」より『推進(みんなで)』

# ① イベントで終わらせないために

例えば・・・高校生対象 認知症サポーター養成講座の調整

高校生に認知症サポーター講座をしよう

打合せ『当日は……』

200人養成!(^^)!

高校生に認知症サポーター講座をしよう

打合せ『当日は……』

200人養成!(^^)!

**次の事業や関わる人達、アイデアを頭に入れて打ち合わせに臨む!**

打合せ『講座後、何か一緒にできそうな……』

高齢者に手紙を書こう!



高校生から民生委員に

## ②「直接(一人で)」より『推進(みんなで)』

例えば…徘徊模擬訓練の実施に向けた調整

- 町内会、自治会との調整と打合せは誰がする？
- 学校には？
- ボランティアには？
- 介護事業所には？
- 警察には？
- 民生児童委員には？
- 当日の進行は誰がする？
- 場所の調整は？
- 道路使用許可の申請は？
- 徘徊役の調整は？
- 案内文はどこに誰が送る？
- チラシの作成は？
- 行事保険は？
- 振り返りは？
- 必要備品は？
- 企画書は？
- その他…

一人でしない

## ★一人ですると

- アイデアが乏しい
- 従事者の意識が高まらない
- 規模が小さくなる
- 担当者が代わればわからない
- イベントで終わってしまい継続的な取り組みになりにくい
- 一人の力や時間には限界がある

## ★みんなで協力すると

- たくさんの新しいアイデアや視点が生まれる
- 従事者の意識も高まり継続的なネットワークにつながる
- 規模を大きくすることが可能になる
- 担当者が代わっても引継ぎがスムーズ
- PDCAサイクルで事業化できる
- 推進員自身を含めた専門職スキルの底上げになる

最初はみんなで協力するほうが大変かもしれない……

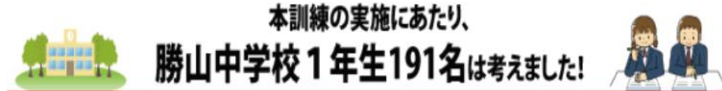
でも、「それでは市民のためにはならない。自己満足で終わる可能性が高い。」と、最近ようやく気が付きました。

# 成果と今後について

- ・顔の見える関係の人や機関の**領域の幅**が広がった。
- ・住民や関係者の**意識の変化**を感じる。
- 例) 徘徊SOS 協力依頼で断られることはない。
- ・**事業と事業、人と人がつながる**ようになってきた。
- ・**世代間交流が継続性のあるもの**になってきた。
- 例) **認知症サポーター養成講座を受講した中学生がボランティア体験に参加し、高齢者施設で実習したり、徘徊模擬訓練に参加している。**

事業実施後の成果発表会にも呼んでくれたので参加してきました。

今後は、認知症に関心をもってくれた市民が具体的に活動できるように、事業を通じて知り合った皆さまと一緒に取り組んでいきたいと思っています。



**みんなが安心して過ごせる町にするために何ができるか?**

- 👉 地域で困っている人がいたら、一人ひとりが少し勇気を出して、思いやりの心で自分に出来ることをおこなう!
- 👉 一人だけでなく、ご近所の人たちや町のみんなで協力して助け合い、みんなにやさしい環境をつくっていく!

具体的には・・・(意見の一部をご紹介します。)

- 見て見ぬふりをしない。
- 町のルールを守る。
- 挨拶や会釈など小さな事からしっかりとおこなっていく。
- 電車やバスで席をゆずってあげたり、荷物を持ってあげたりする。
- 認知症の方だけでなく、困っている人を見つけたら、近所に住んでいる人達で協力して助けあう。



**大人になっても、ずっと忘れずにいたいと思います!!**

声のかけ方(一例)

- ゆっくり近づいて、おだやかにやさしい口調で話しかけてください。
- 急に後ろから声をかけたり、大声で怒鳴るような声かけをすると混乱される事があります。
- 「こんにちは」「寒いですね」など、ごく普通のあいさつから始めてみてください。
- 「何かお困りですか?」「大丈夫ですか?」など、わかりやすい言葉で声をかけてあげてください。
- 相手のペースに合わせて、笑顔で接してあげてください。
- 上から見下すような態度や、多人数で取り囲んだり、急に腕をつかんだり、身体に触れたりすると、警戒心をもたれ、その場を立ち去ってしまわれる事があります。
- ゆっくり歩きながら「少し休んでいかれませんか?」「お茶でもいかがですか?」など声をかけたり、ひと休みしてもらえようようにしてみてください。
- 声をかけても上手くいかない場合は、いったんその場を離れて間をおくか、近所の方に連絡し協力を求めるなどしてみてください。



# 最後に

◎推進員の活動は見えにくいものが多いため、活動内容（特に**プロセス**の部分）をどのように**見える化**（**記録**）していくかが大切だと感じています。

そうすることで推進員の活動（役割）が見えてくると思います。

◎推進員ひとりで全てできません。

自分ができる**範囲**のことに**優先順位**を付けて、**少しずつ継続**して取り組んでいけばいいと思います。

◎協力してくれる仲間は探せば必ずいるはず。

**チームで！**

『のりしろ』  
結びつけるという意味だけでなく、  
余裕や遊びという意味もある。  
制度にとらわれないことも大切。

by 同志社大学 永田裕准教授

**市民のために！！**

**推進員自身のためにも！**



**ご清聴ありがとうございました。**